

JVCケンウッド 決算説明資料

2025年3月期中間期 (IFRS)

株式会社JVCケンウッド

2024年10月31日



- * 本資料の数値は全てIFRS（国際会計基準）となっています。
- * 本資料における比率・差額については、円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入しています。

■ 2025年3月期中間期実績

- ✓ 売上収益は、S&S 無線システムの販売好調継続、M&T 海外OEMの販売好調などから、前期比で増収
- ✓ 本業のもうけを示す事業利益※は、S&Sが中間期として経営統合以降で最高益となり、M&T、ESと合わせて3分野全てが増益となったことから、前期比で大幅な増益。営業利益以下の段階損益も前期比で大幅増益

※ 売上収益から売上原価、販売費および一般管理費を控除することにより算出され、主として一時的な要因からなるその他の収益、その他の費用、為替差損益などを含まない。

■ 2025年3月期通期業績予想を上方修正

- ✓ 3Q以降についても、3分野全てにおいて堅調な業績を見込むことから、期初に発表した業績予想を上方修正

■ 自己株式の取得を実施

- ✓ 取得価額の総額を45億円（上限）とする自己株式の取得を、2024年11月1日～2025年1月31日の期間で実施

1. 2025年3月期中間期決算概況および 通期業績予想

2. トピックス

＜参考資料＞

1. 2025年3月期中間期決算概況および 通期業績予想

2. トピックス

<参考資料>

2025年3月期中間期決算 全社実績

(億円)

	'22/3期 中間期	'23/3期 中間期	'24/3期 中間期	'25/3期 中間期	前年比	
売上収益	1,244	1,581	1,747	1,766	+ 19	+1.1%
売上原価	922	1,145	1,217	1,185	△ 32	-2.6%
売上総利益	322	436	530	581	+ 50	+9.5%
利益率	25.9%	27.6%	30.4%	32.9%		
事業利益^{※1}	△ 8	59	105	130	+ 25	+23.9%
利益率	-0.7%	3.8%	6.0%	7.4%		
その他の収益・費用、為替差損益等	29	△ 2	△ 7	5	+ 12	-
営業利益	21	58	98	136	+ 37	+38.2%
利益率	1.7%	3.6%	5.6%	7.7%		
税引前中間利益	17	58	97	145	+ 47	+48.6%
親会社の所有者に帰属する						
中間利益	△ 3	37	68	111	+ 43	+64.4%
EBITDA^{※2}	111	150	193	238	+ 46	+23.7%
EBITDAマージン	8.9%	9.5%	11.0%	13.5%		

※1: 売上収益から売上原価、販売費および一般管理費を控除することにより算出され、主として一時的な要因からなるその他の収益、その他の費用、為替差損益などを含まない。

※2: 税引前利益 + 支払利息 + 減価償却費 + 減損損失で計算

		'22/3期					'23/3期					'24/3期					'25/3期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
損益為替レート	1米ドル	110	110	114	116	112	130	138	141	132	135	137	145	148	149	145	156	150			
	1ユーロ	132	130	130	130	131	138	139	144	142	141	150	157	159	161	157	168	164			

2025年3月期中間期決算 分野別の状況

(億円)

		'22/3期 中間期	'23/3期 中間期	'24/3期 中間期	'25/3期 中間期	前年比	
M&T	売上収益	719	960	979	967	△ 12	-1.2%
	事業利益	△ 14	21	18	20	+ 2	+13.1%
S&S	売上収益	258	328	456	486	+ 30	+6.6%
	事業利益	△ 1	36	87	99	+ 13	+14.5%
ES	売上収益	239	261	270	266	△ 4	-1.4%
	事業利益	8	2	1	10	+ 8	+586.7%
その他	売上収益	29	32	42	46	+ 4	+10.2%
	事業利益	△ 2	1	△ 1	1	+ 2	-
合計	売上収益	1,244	1,581	1,747	1,766	+ 19	+1.1%
	事業利益	△ 8	59	105	130	+ 25	+23.9%

M&T

アフターマーケット、テレマティクスの販売減から、売上収益は分野全体で減収。事業利益は減収に加え為替ヘッジによるマイナス影響（約5億円）を受けるも、海外OEMの販売が好調に推移したことから、分野全体では増益

S&S

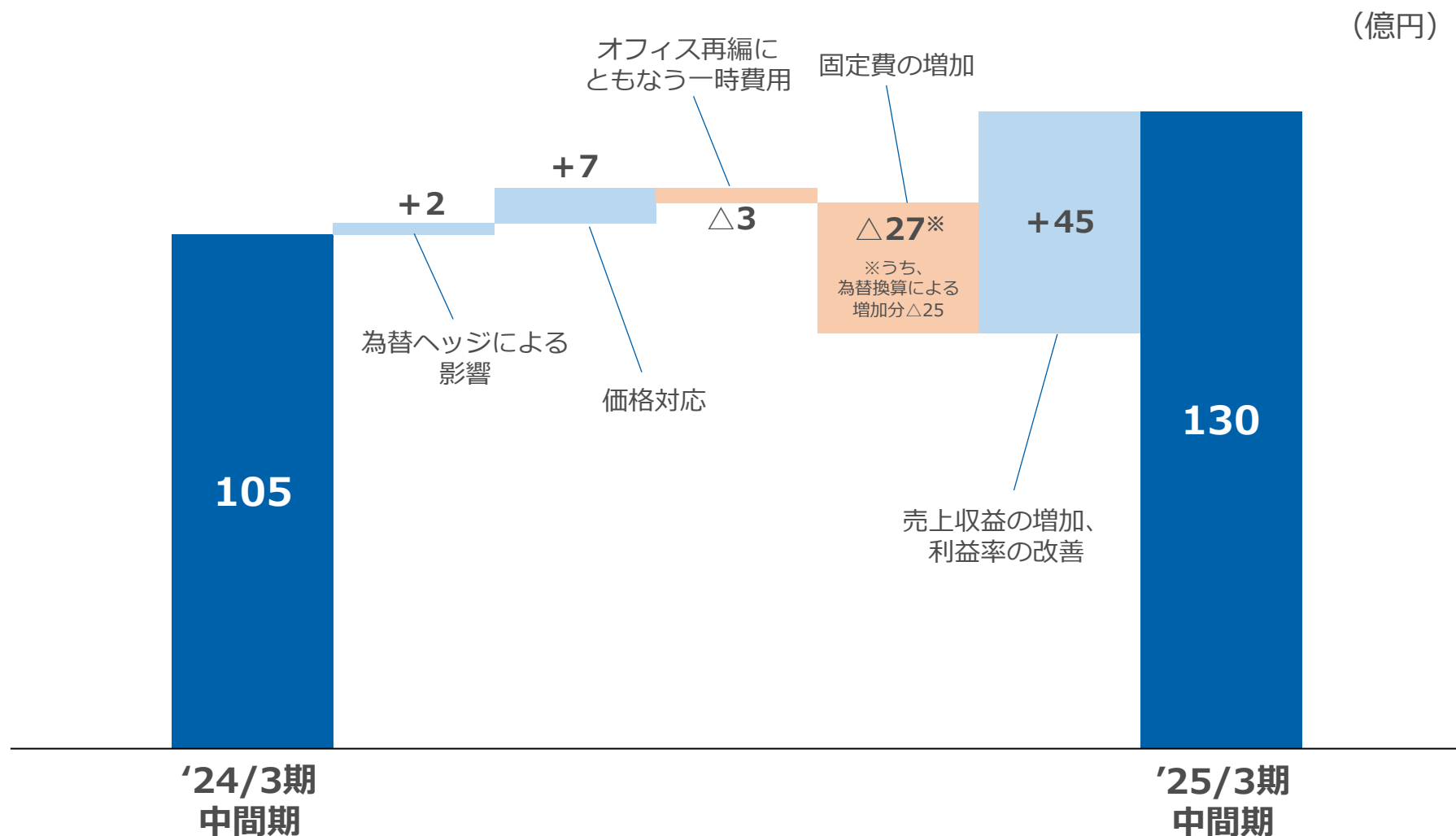
無線システムが人員増などともなう固定費増加の影響を受けたものの、北米の公共安全市場において、業務用無線機の販売が好調に推移したことなどから、分野全体で増収増益。中間期として経営統合以降での最高益

ES

エンタテインメントが減収となるも、メディアの増収に加え、前期に実施した構造改革効果、固定費改善効果により、分野全体で減収増益

2025年3月期中間期決算 事業利益の増減要因

- 固定費の増加を、売上収益の増加や利益率の改善、価格対応などでカバーし、前期比で増益



2025年3月期通期業績予想の上方修正について

- 中間期はS&Sが経営統合後で最高の実績となり、M&T、ESと合わせて3分野全てが増益となったことから、全社では期初の想定を大きく上回る実績
- 3Q以降についても、3分野全てにおいて堅調な業績を見込むことから、通期連結業績予想を上方修正

(億円)

	'22/3期	'23/3期	'24/3期	'25/3期 前回発表予想 ('24/4/26)	'25/3期 今回発表予想 ('24/10/31)	前回発表 予想比	前年比	
売上収益	2,821	3,369	3,595	3,620	3,640	+ 20	+ 45	+1.3%
事業利益	71	158	197	190	230	+ 40	+ 33	+16.7%
営業利益	91	216	182	182	220	+ 38	+ 38	+20.7%
税引前利益	85	212	182	180	230	+ 50	+ 48	+26.1%
親会社の所有者に帰属する当期利益	59	162	130	125	170	+ 45	+ 40	+30.6%
ROE (%)	8.1	18.2	12.2	10.5	14.0	+3.5pt	+1.8pt	-

(円)

	'22/3期	'23/3期	'24/3期	'25/3期 前回発表予想 ('24/4/26)	'25/3期 今回発表予想 ('24/10/31発表)
年間配当金	6	12 ^{※1}	12	13 ^{※2}	13^{※2}

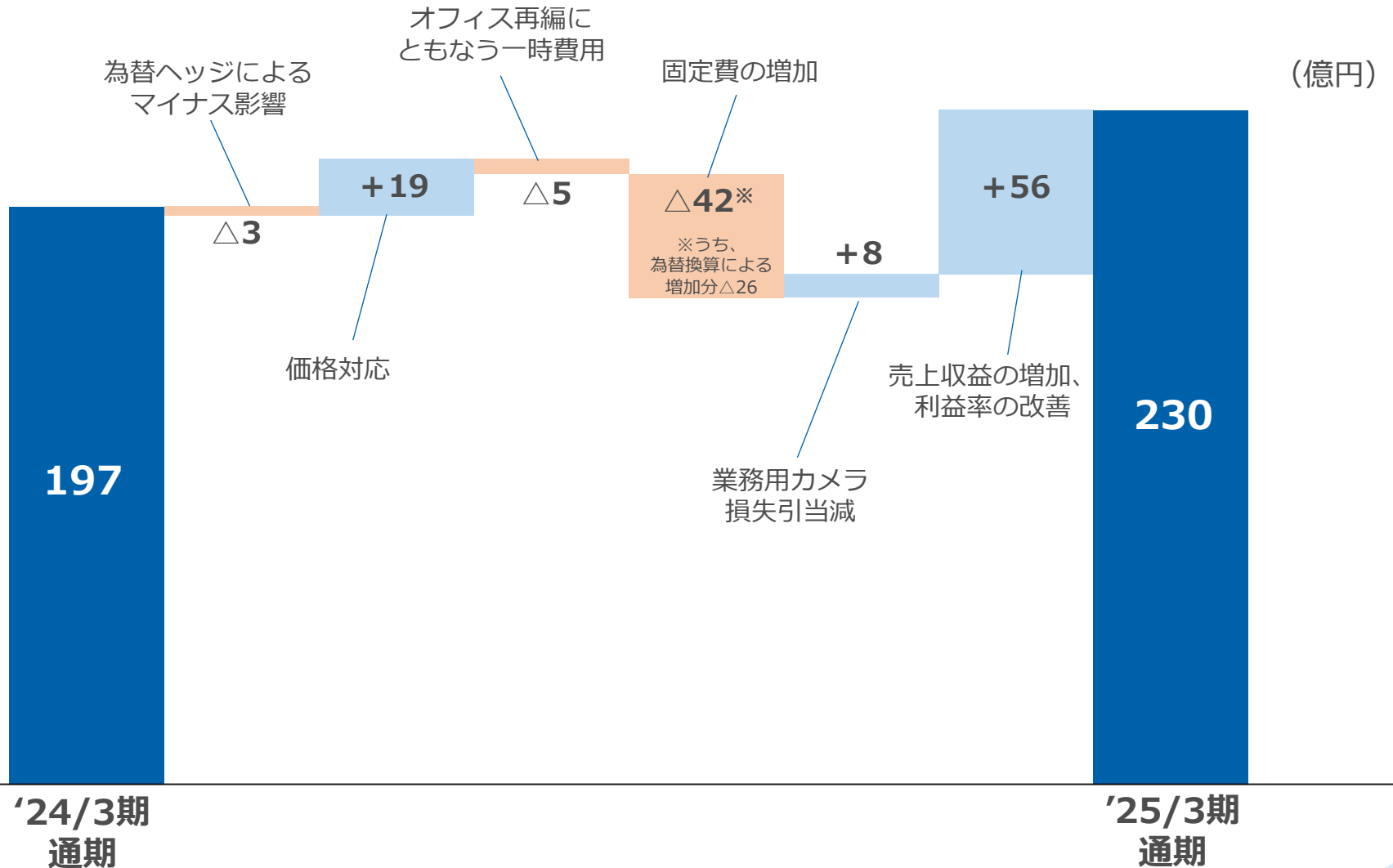
※1：うち、特別配当5円

※2：中間配当金 5円、期末配当金 8円

(円)

		'22/3期	'23/3期	'24/3期	'25/3期 前回発表予想 ('24/4/26)	'25/3期 今回発表予想 ('24/10/31)
損益為替レート	1米ドル	112	135	145	147	147
	1ユーロ	131	141	157	159	159

2025年3月期通期業績予想 事業利益の増減要因 (対前年実績)



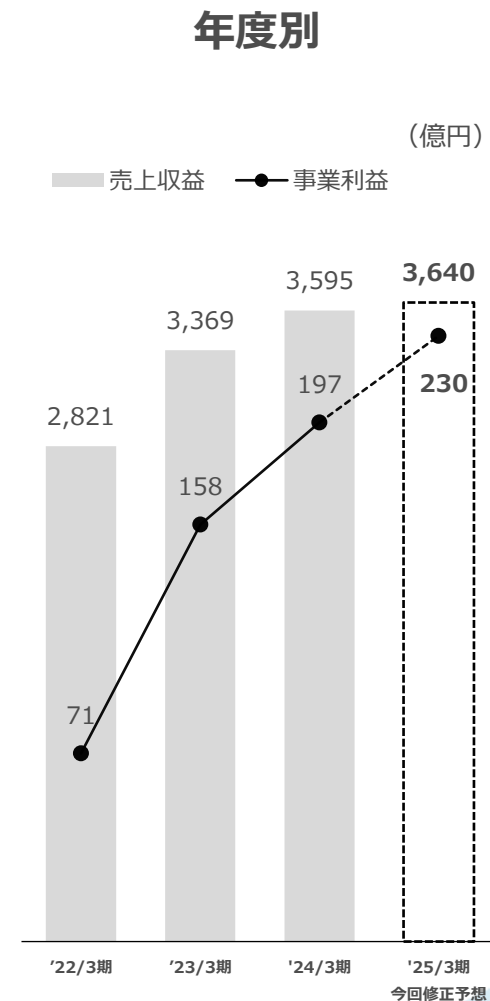
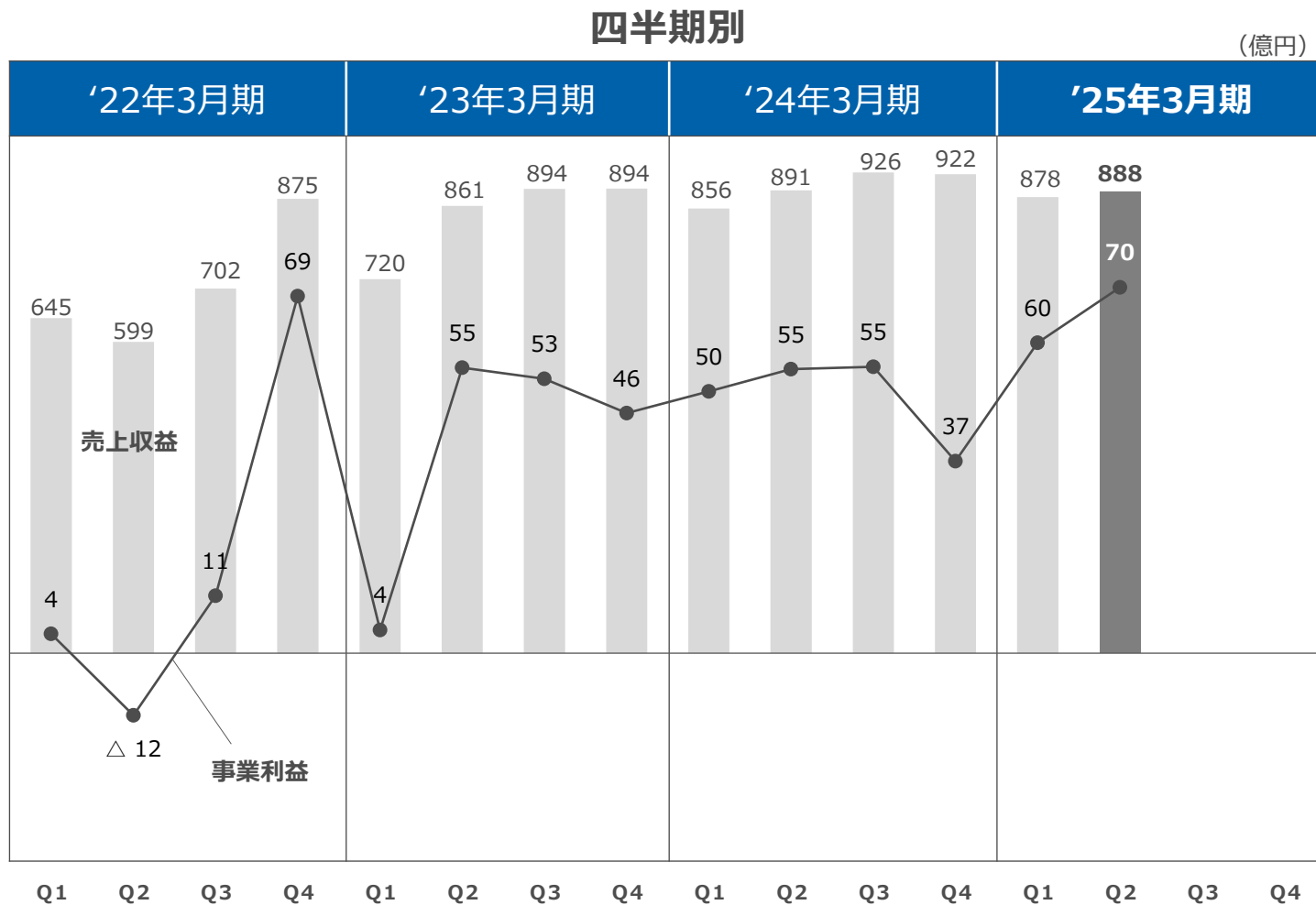
2025年3月期通期業績予想 分野別の状況

(億円)

		'22/3期 実績	'23/3期 実績	'24/3期 実績	'25/3期 前回発表予想 ('24/4/26発表)	'25/3期 今回発表予想 ('24/10/31発表)	前回発表 予想比	前年比
M&T	売上収益	1,643	1,976	1,994	2,030	2,000	△ 30	+ 6
	事業利益	22	44	39	33	40	+ 7	+ 1
S&S	売上収益	581	747	938	960	1,000	+ 40	+ 62
	事業利益	25	107	165	156	180	+ 24	+ 15
ES	売上収益	534	573	560	570	570	± 0	+ 10
	事業利益	27	8	△ 3	10	15	+ 5	+ 18
その他	売上収益	63	74	103	60	70	+ 10	△ 33
	事業利益	△ 3	△ 0	△ 4	△ 9	△ 5	+ 4	△ 1
合計	売上収益	2,821	3,369	3,595	3,620	3,640	+ 20	+ 45
	事業利益	71	158	197	190	230	+ 40	+ 33

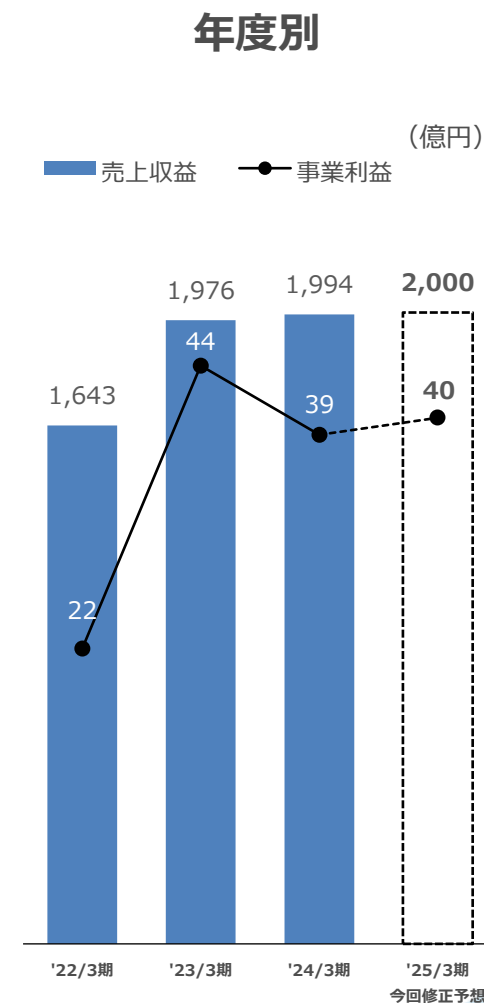
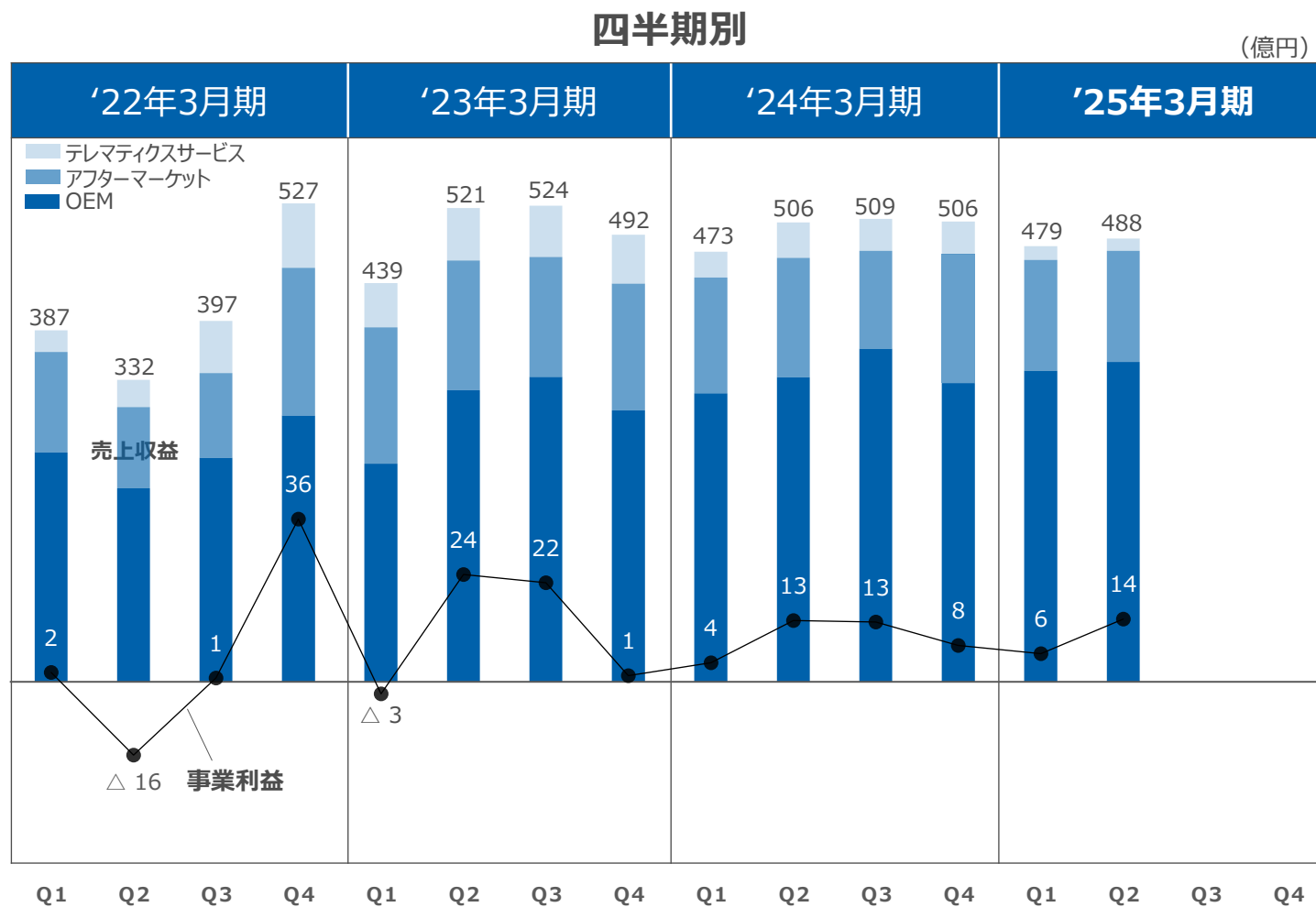
全社実績推移

- 2Q（7-9月）は、M&Tのテレマティクスの販売減などから全社売上収益は前期並みも、商品ミックスが改善したことなどから、全社事業利益は大幅増益



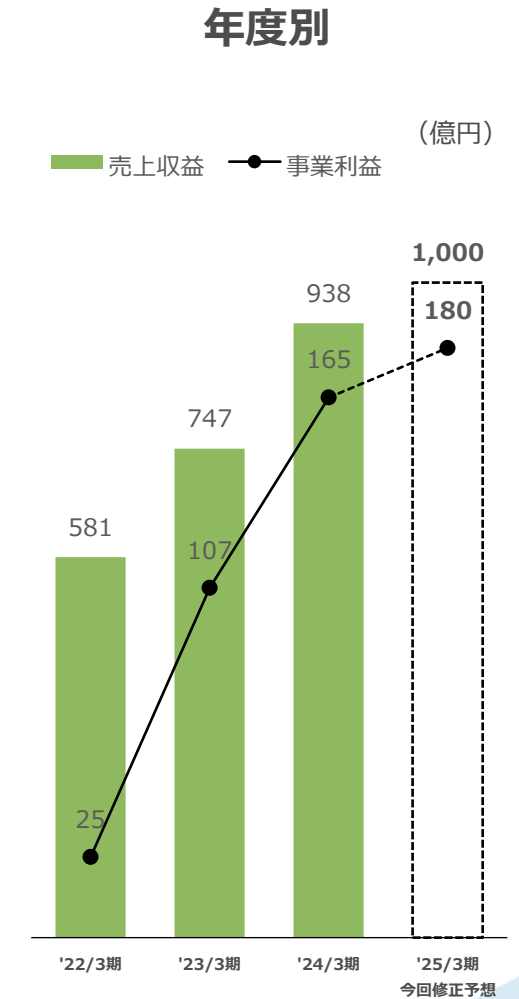
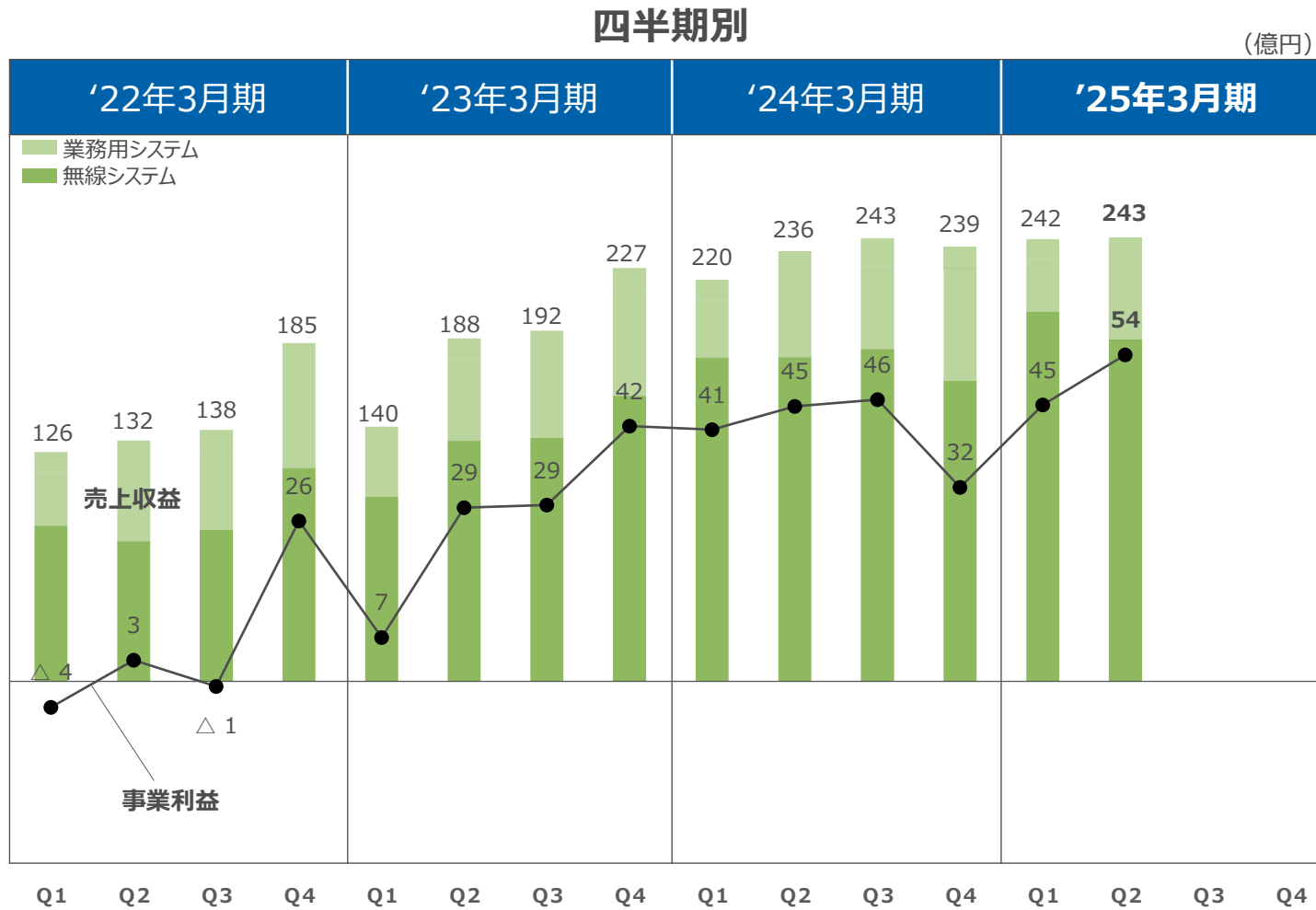
M&T 売上収益・事業利益推移

- 2Q（7-9月）は、海外OEMが好調に推移したことから、テレマティクスの販売減や為替ヘッジによるマイナス影響（約2億円）などを受けたが、分野全体では前期比で減収となるも増益



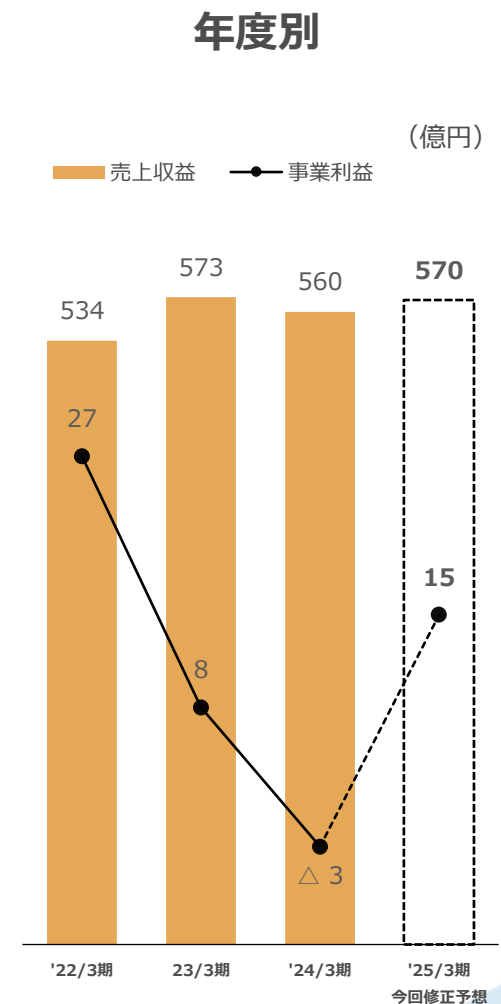
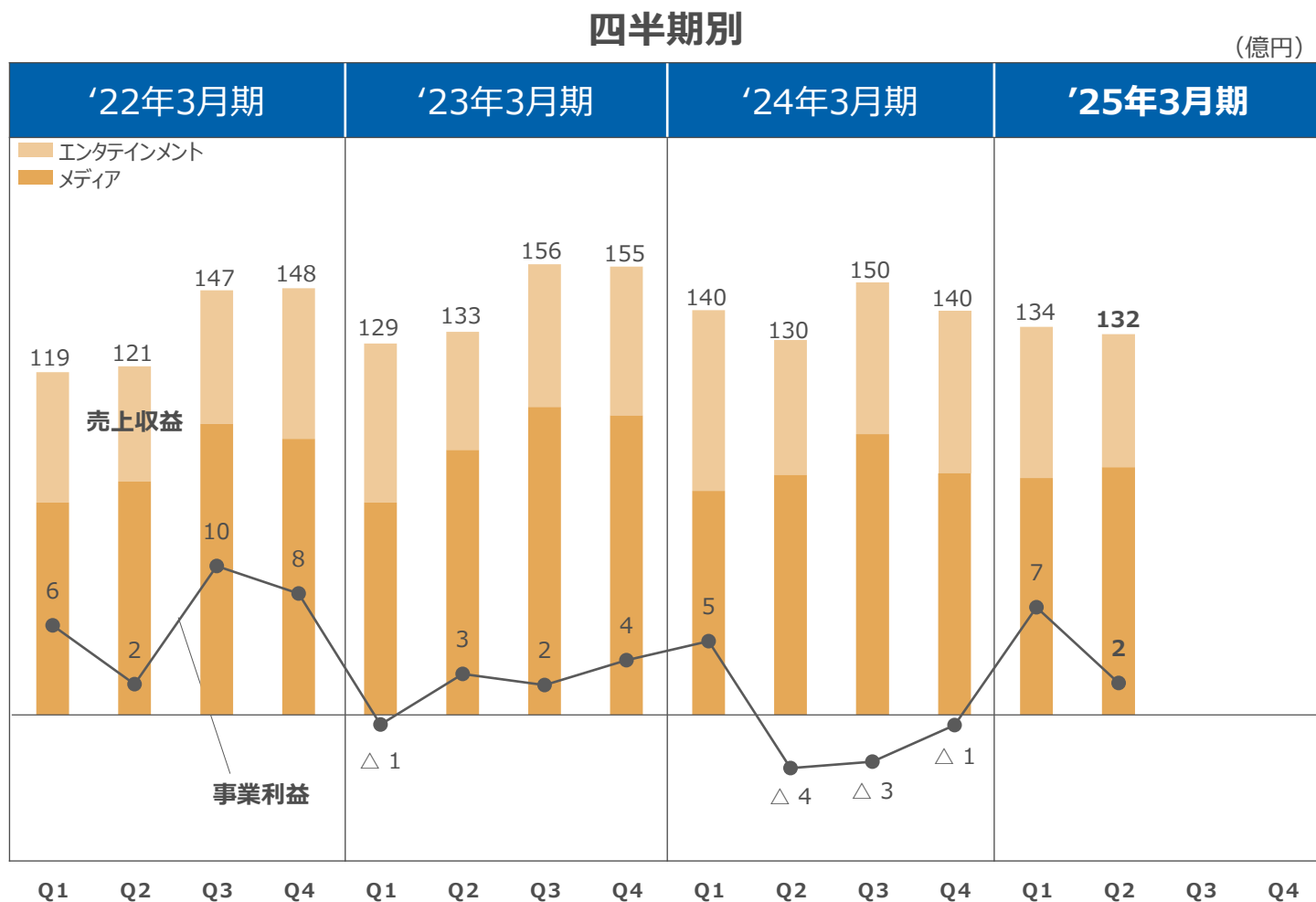
S&S 売上収益・事業利益推移

- 2Q（7-9月）は、無線システムの北米公共安全市場向けの販売好調継続により、分野全体で前期比で増収増益。事業利益は、四半期としては経営統合以降で最高益



ES 売上収益・事業利益推移

- 2Q（7-9月）は、メディアの増収に加えて、前期に実施した構造改革効果、固定費改善効果などから、前期比で増収増益

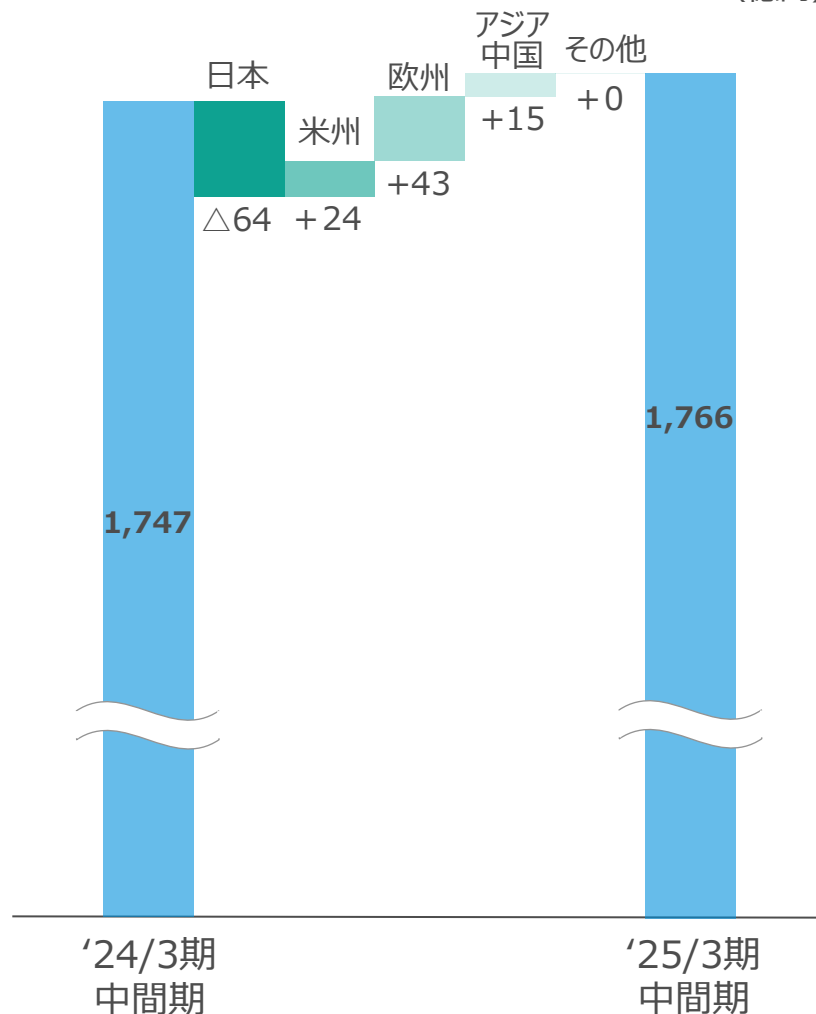


2025年3月期中間期決算 地域別連結売上収益

- 無線システムの北米公共安全市場向けの販売好調や、海外OEMの好調により、欧米及びアジア・中国が増収。日本はテレマティクスサービス販売減などにより減収

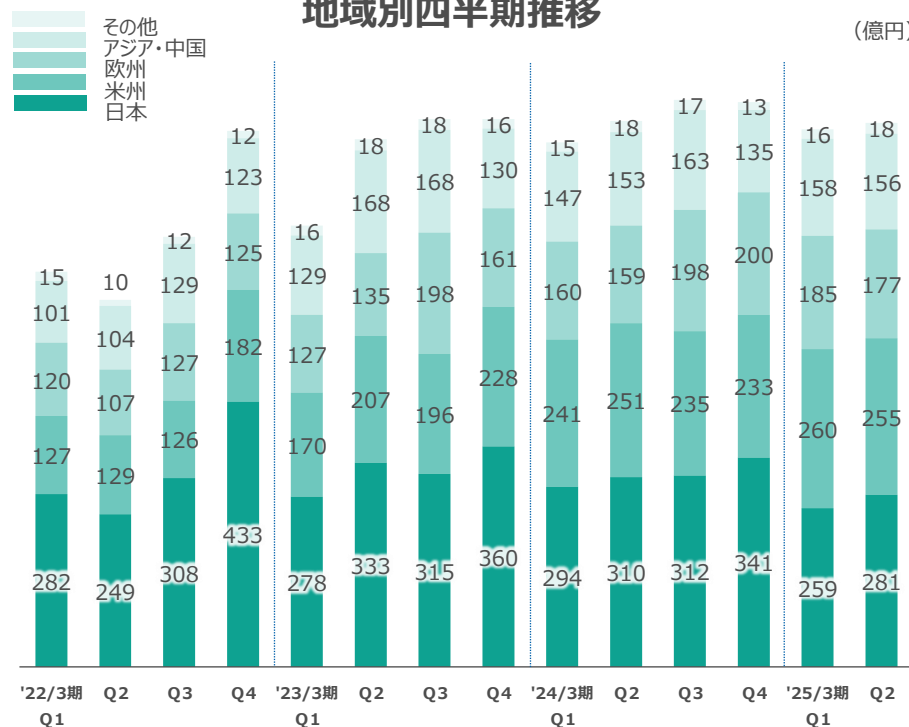
地域別増減

(億円)



地域別四半期推移

(億円)



地域別構成比推移

	'22/3期2Q	'23/3期2Q	'24/3期2Q	'25/3期2Q
日本	42%	39%	35%	32%
米州	22%	24%	28%	29%
欧州	18%	16%	18%	20%
アジア・中国	17%	19%	17%	18%
その他	2%	2%	2%	2%
合計	100%	100%	100%	100%

2025年3月期中間期決算 連結損益サマリー

- 営業利益は、事業利益の増加に加え固定資産売却益の計上などにより約38億円の増益
- 税引前中間利益以下の段階損益は、持分法による投資利益が増加したことなどにより大幅な増益

(億円)

	'22/3期 中間期	'23/3期 中間期	'24/3期 中間期	'25/3期 中間期	前年比
事業利益	△ 8.3	59.4	105.0	130.2	+ 25.1
その他の収益・費用、為替差損益等	29.0	△ 1.8	△ 7.0	5.4	+ 12.4
営業利益	20.7	57.6	98.1	135.6	+ 37.5
金融収支他	△ 3.4	0.2	△ 0.7	9.2	+ 9.8
税引前中間利益	17.3	57.8	97.4	144.7	+ 47.3
法人所得税費用	16.8	18.2	26.7	28.6	+ 1.9
非支配持分	3.0	2.9	3.2	5.2	+ 2.0
親会社の所有者に帰属する中間利益	△ 2.6	36.8	67.5	110.9	+ 43.4

2025年3月期中間期決算 財政状態サマリー

- 親会社の所有者に帰属する持分は、その他の資本の構成要素は減少したものの、利益剰余金の増加により、前期末比で37億円増の1,185億円
- ネットキャッシュは、前期末の6億円から21億円増加して27億円

(億円)

	'22/3期末	'23/3期末	'24/3期末	'25/3期 中間期	前期末比
資産合計	2,808	2,994	3,168	3,086	△ 82
負債合計	1,968	1,956	1,956	1,835	△ 121
資本合計	840	1,037	1,212	1,251	+ 39
有利子負債	698	625	573	516	△ 57
ネットキャッシュ	△ 211	△ 63	6	27	+ 21
ネットD/Eレシオ (倍)	0.27	0.06	△ 0.01	△ 0.02	△ 0.01
親会社の所有者に帰属する持分	795	988	1,148	1,185	+ 37
親会社所有者帰属持分比率 (%)	28.3	33.0	36.2	38.4	+ 2.2pt

2025年3月期中間期決算 キャッシュ・フローサマリー

- 営業キャッシュ・フローは、事業利益の増加に加えて運転資金の改善などにより、前期比で収入が増加
- 投資キャッシュ・フローは、開発投資や新社屋建設費用などの支出増があったものの、固定資産売却収入があったことから、ほぼ前期並みの支出
- 財務キャッシュ・フローは、有利子負債の返済を進めたものの、前期に実施した自己株式取得がなかったことから、前期比で支出が減少

(億円)

	'22/3期 中間期	'23/3期 中間期	'24/3期 中間期	'25/3期 中間期	前年比
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 25	80	106	160	+ 54
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 13	△ 79	△ 80	△ 79	+ 2
フリー・キャッシュ・フロー <small>(営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー)</small>	△ 37	2	25	81	+ 56
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 47	△ 78	△ 110	△ 102	+ 8
合計	△ 84	△ 76	△ 85	△ 22	+ 63

1. 2025年3月期中間期決算概況および 通期業績予想

2. トピックス

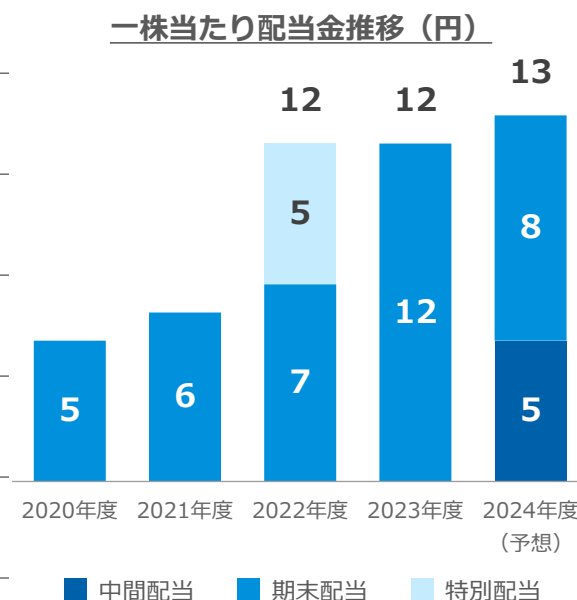
<参考資料>

株主還元について

- 11月より約45億円の自己株式取得を実施
- 2024年度は経営統合以降初めて中間配当（5円）を実施

<株主還元実績>

時期	内容	金額	原資
2023年5月	2022年度 期末配当	約20億円（12円/株） 普通配当7円、特別配当5円	2022年度利益
2023年6月	自己株式取得	約40億円	2022年度利益
2023年12月	自己株式取得	約25億円	2023年度利益
2024年5月	2023年度 期末配当	約18億円（12円/株）	2023年度利益
2024年11月 予定	自己株式取得	約45億円	2024年度利益
2024年12月	2024年度 中間配当	約7.6億円（5円/株）	2024年度利益



<株主還元方針>

還元方針	総還元性向30～40%を目安とする
配当	安定的な配当かつ継続的な増配を目指す
自己株式取得	財務健全性の維持、成長事業への投資を確保しつつ、総還元性向の範囲内で機動的に実施

S&S 無線システム事業 成長戦略の進捗状況

■ 人員増強

- ✓ 無線システム事業部への社内異動：約70名完了（2024年4月）
- ✓ 北米公共安全市場向けEFJT※1での採用：計画通り進捗（約30名採用）

■ 製品ラインアップの増強

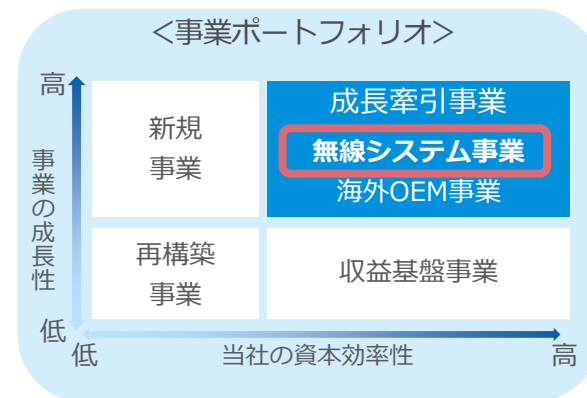
- ✓ トライバンド対応車載用無線機「VM8000」導入（2024年11月）
- ✓ 北米民間市場向けにTait社※2と共同開発したDMR※3トランキングシステム※4「Trunking 2.5」導入（2024年度4Q）



<Trunking 2.5対応レピーター「TKR-2500」>



<VM8000>



■ 国内市場向け取組み強化

- ✓ 公衆通信回線網を活用した事業拡大

IP無線※5市場への参入準備：株式会社サイエンスアーツとの資本業務提携 ⇒P.23

- ✓ 自営通信領域での事業拡大

デジタル簡易無線中継器を軸とした取組み：株式会社鹿島アントラーズFCとのパートナー契約 ⇒P.24

※1: EF Johnson Technologies, Inc. ※2: Tait International Ltd. ※3: Digital Mobile Radio ※4: 効率的なチャンネル利用を可能にする中継システムのこと

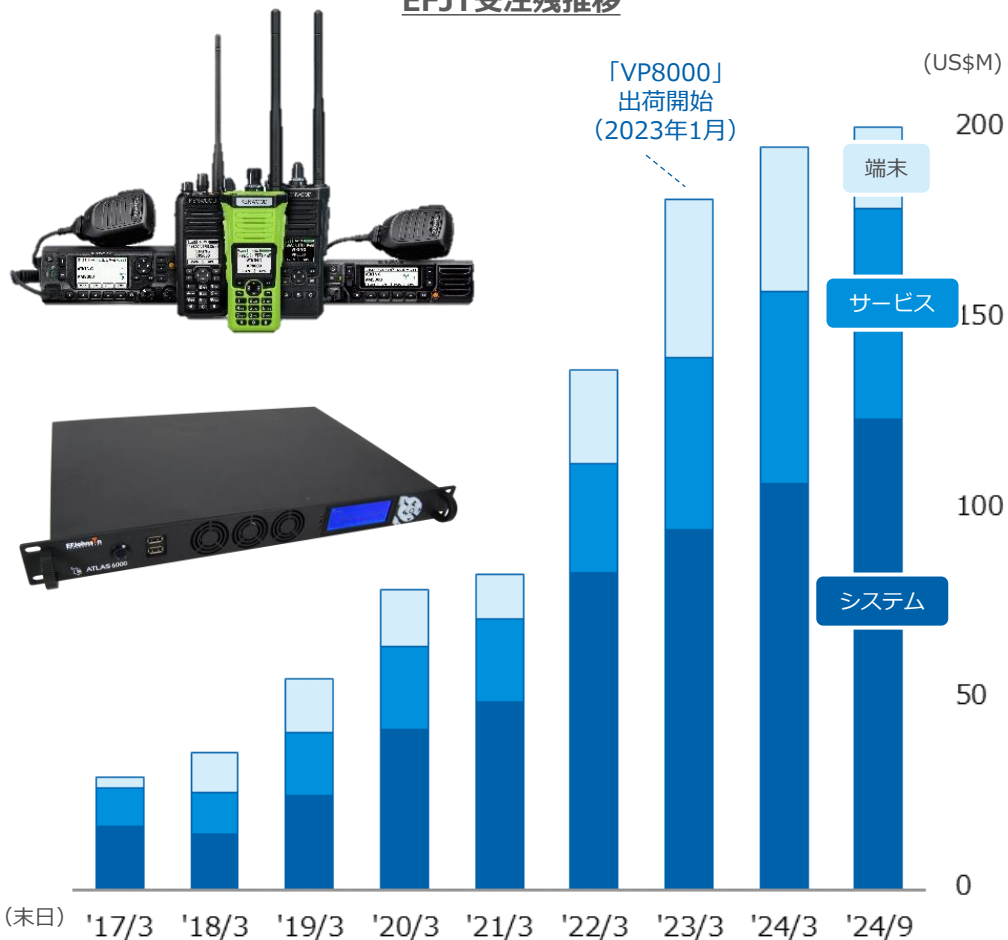
※5: IP=Internet Protocol の略。スマートフォンなどのようにインターネット通信を使用し、無線機と同様に1対複数の通話などが可能

S&S 無線システム事業 北米公共安全市場は堅調



- 北米公共安全市場向けEFJTの受注残は順調に増加

EFJT受注残推移



- 北米最大の警察関係者向け展示会「IACP2024※ (10/19-22)」にて最新ソリューション紹介

- ✓ トライバンド対応製品シリーズ
- ✓ P25対応レピーターシステム
- ✓ ディスパッチコンソール
- ✓ P25/DMR両規格対応レピーター
- ✓ AI活用ソリューション【参考出品】



<P25対応レピーターシステム>

One Radio. All Bands. Every Mission.

KENWOOD | VIKING

8000 Series

VISIT JVCKENWOOD BOOTH #2501

<IACP出展案内>

※:The International Association of Chiefs of Police 2024 <https://www.jvckenwood.com/jp/press/2024/1016-01.html>

S&S 無線システム事業 国内市場強化施策①

■ 公衆通信回線網を活用した事業拡大

- ✓ 株式会社サイエンスアーツとの資本業務提携（2024年10月15日広報発表）

<https://www.jvckenwood.com/jp/press/2024/1015-01.html>

背景

- ✓ インターネット通信網とアプリケーションによってユーザー利便性を高められるIP無線※1の市場が拡大中
- ✓ IP無線の市場規模はグローバルでUS\$817million（2023年）※1あり、今後も大きく成長が見込まれている

戦略

IP無線領域における強固なパートナーシップを構築し、それぞれの得意分野や販売ネットワークなどの経営資源を活用

JVCKENWOOD

- ・約80年にわたり培ってきた無線技術
- ・信頼性の高いデジタル無線システム
- ・グローバルな販売ネットワーク



SCIENCE ARTS

- ・スマホやタブレット向けIP無線サービス「Buddycom」の開発・販売
- ・IP無線アプリの幅広い機能の開発力（ソフトウェア）
- ・大規模運用できるサブスクリプション型ビジネス

buddycom



国内
シェア
No.1※2

※1: OMDIAレポート「Critical Communications Broadband Report - 2023 Data」を基にJVCケンウッド推計

※2: デロイト トーマツ ミック経済研究所「デスクレス SaaS 市場の実態と展望 2024 年度版」音声（映像）コミュニケーションツール出荷金額・社数（ノンデスクワーカー向け）

S&S 無線システム事業 国内市場強化施策②

■ 自営通信領域での事業拡大

背景

- ✓ 電波法改正：簡易無線機（350MHz帯および400MHz帯）のアナログ停波（2024年11月30日）
- ✓ 利用者増加に伴うデジタル簡易無線の高度化（チャンネル数の増加、中継器利用の認可）
⇒ **デジタル化の促進、販売機会の拡大**
- ✓ 多発する自然災害による防災意識の向上と政府推進の国土強靱化を背景に、自治体の防災無線の整備が拡大（2025年まで「緊急防災・減災事業債」予算） ⇒ **防災無線の需要増加**



戦略

デジタル簡易無線（DCR※）中継器を軸とした、新規ユーザー開拓の推進

※Digital Convenience Radio

<事例>

- ✓ 株式会社鹿島アントラーズFC（2024年10月3日広報発表）
 - ・ 茨城県立カシマサッカースタジアムにデジタル簡易無線中継システムを導入し、試合運営の確実な通信手段の確保を支援
- ✓ 大規模工場、大型商業施設、冷凍倉庫など
- ✓ 山間部など
- ✓ 地方自治体（神奈川県相模原市など）

<https://www.jvckenwood.com/jp/press/2024/1003-01.html>



©1992 K.A.F.C

JVCKENWOOD



<デジタル簡易無線中継システム>

国内生産回帰 カーナビゲーション生産累計100万台達成 (10/18広報発表)

■ 2021年度より、海外工場からJVCケンウッド長野へ生産移管

- ✓ 2022年2月 国内アフターマーケット向けカーナビゲーション（インドネシアより）
- ✓ 2022年11月 国内OEM用品向けカーナビゲーション（中国・上海より）



<カーナビゲーション>

<今後の取り組み>

■ 生産工程だけでなく、工場全体の自動化を推進

- ✓ AGV※1（無人搬送車）やAMR※2（自律走行搬送ロボット）の導入
⇒部品の移動や配膳の自動化

■ 国内部品サプライヤーとの協業

- ✓ カーナビゲーションのモニター部の組立工程を
部品サプライヤーに委託



スマート工場化



<JVCケンウッド長野>



<生産の自動化ライン>



<梱包の自動化ライン>

※1 : Automatic Guided Vehicle

※2 : Autonomous Mobile Robot。磁気テープなどの物理的ガイドがなくても自律的に走行して目的地まで荷物を運ぶことが可能。

価値創造の拠点「Value Creation Square」を創設

- 2024年10月から横浜本社地区は、Value Creation Square（VCS）としての稼働を開始
 - ✓ グローバルなメガトレンドに対応した技術開発の強化
 - ✓ さらなる働き方改革の推進による新たな価値創造
 - ✓ 全社最適組織
 - ✓ ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーション活性化



<Hybrid Center内>



<新ビルHybrid Center>



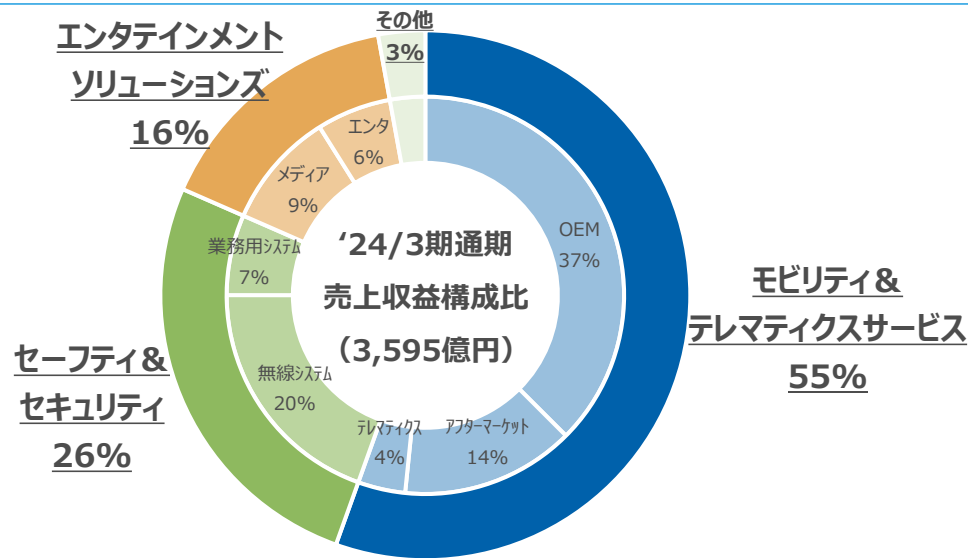
<Hybrid Center内>

JVCKENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況及び製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。

<参考資料>

事業内容



セーフティ&セキュリティ分野 (S&S)

無線システム

業務用無線システム

小電カトランシーバー

業務用システム

セキュリティシステム

業務用放送システム

医用画像表示モニター

モビリティ&テレマティクスサービス分野 (M&T)

OEM

カーナビゲーション

カーオーディオ

車載用アンプ/アンテナ/スピーカー

電気自動車の再生バッテリーを利用したポータブル電源

アフターマーケット

アルコール検知器

除菌消臭装置

ドライブレコーダー

通信型ドライブレコーダー

テレマティクスサービス

エンタテインメントソリューションズ分野 (ES)

メディア

ヘッドホン/イヤホン

オーディオシステム

プロジェクター

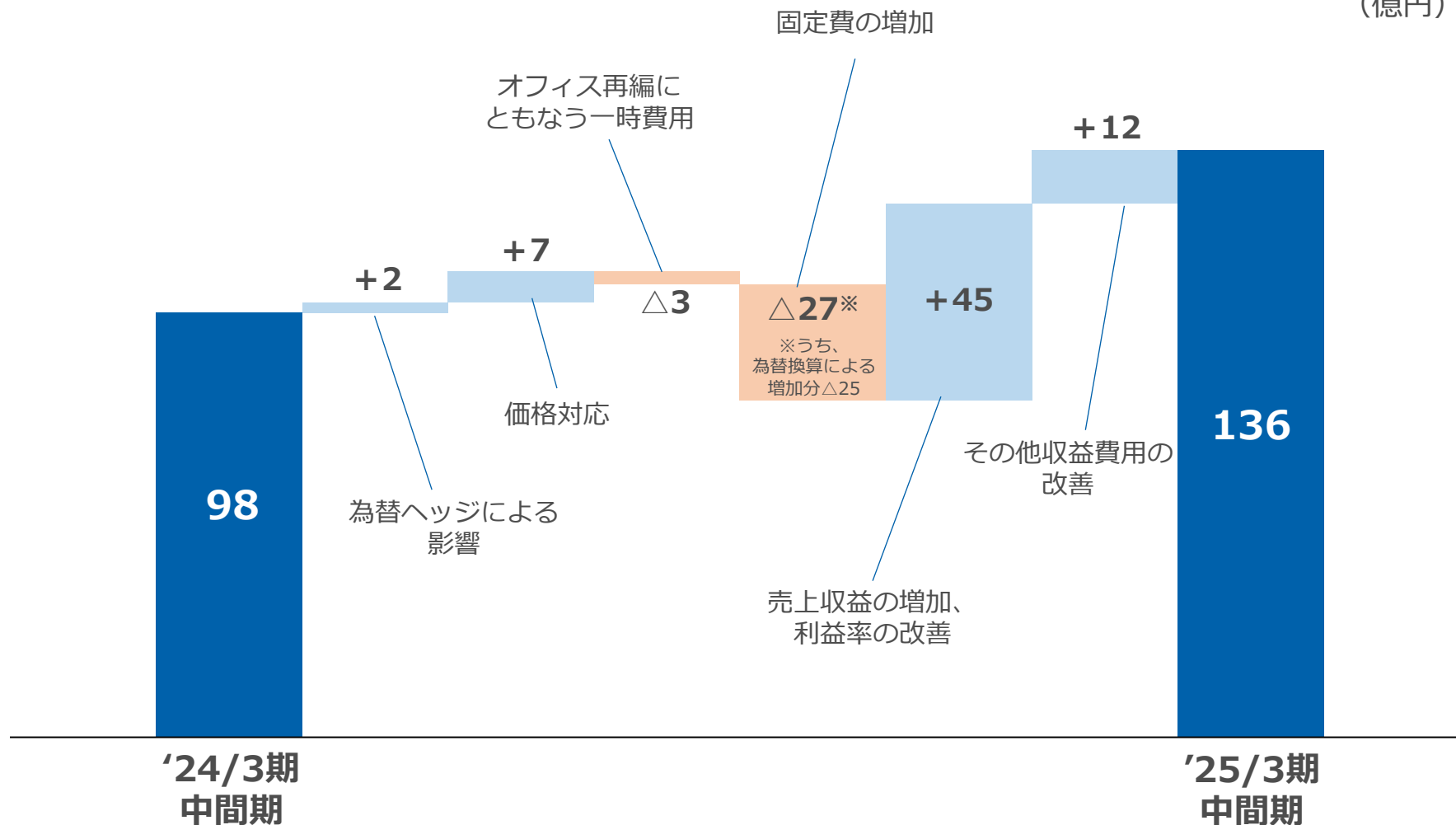
ポータブル電源

エンタテインメント

音楽・映像コンテンツ

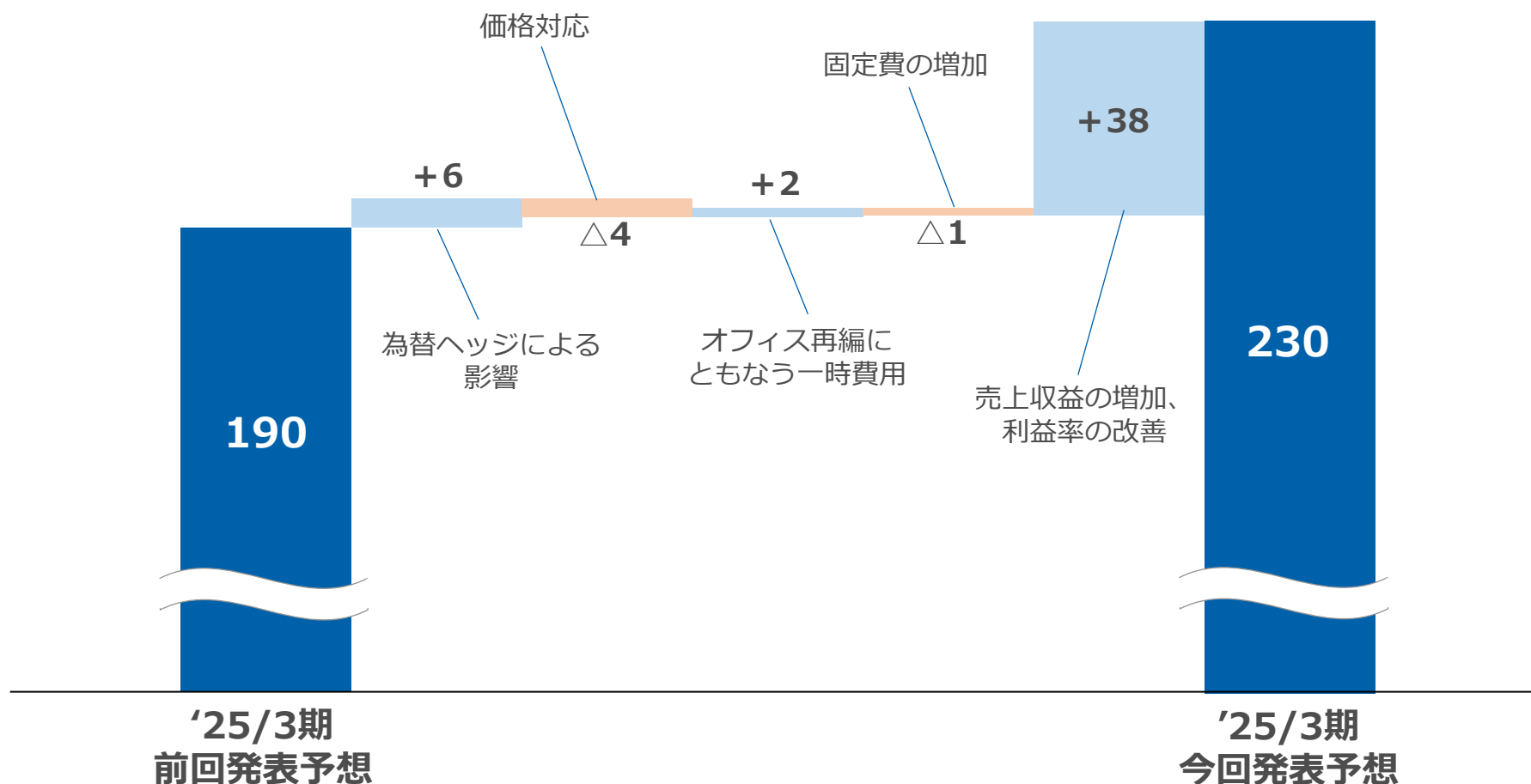
2025年3月期中間期決算 営業利益の増減要因

(億円)



2025年3月期中間期決算 事業利益の増減要因（前回予想差）

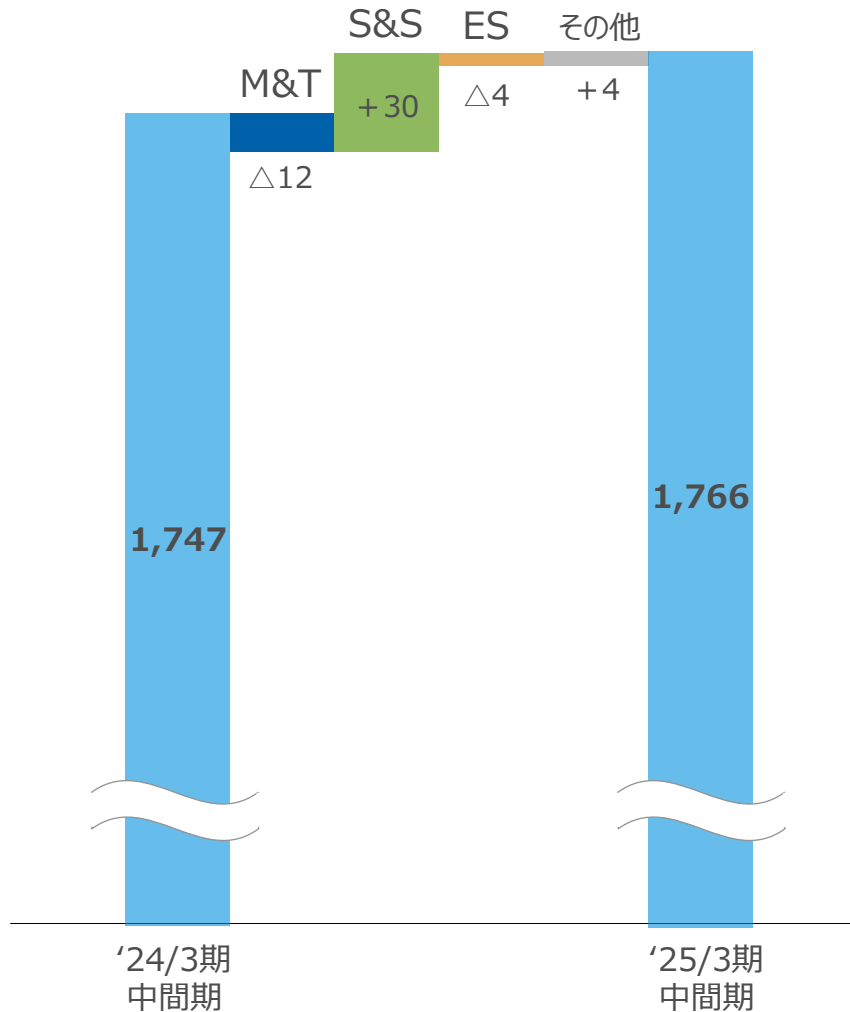
(億円)



2025年3月期中間期決算 分野別連結売上収益・事業利益

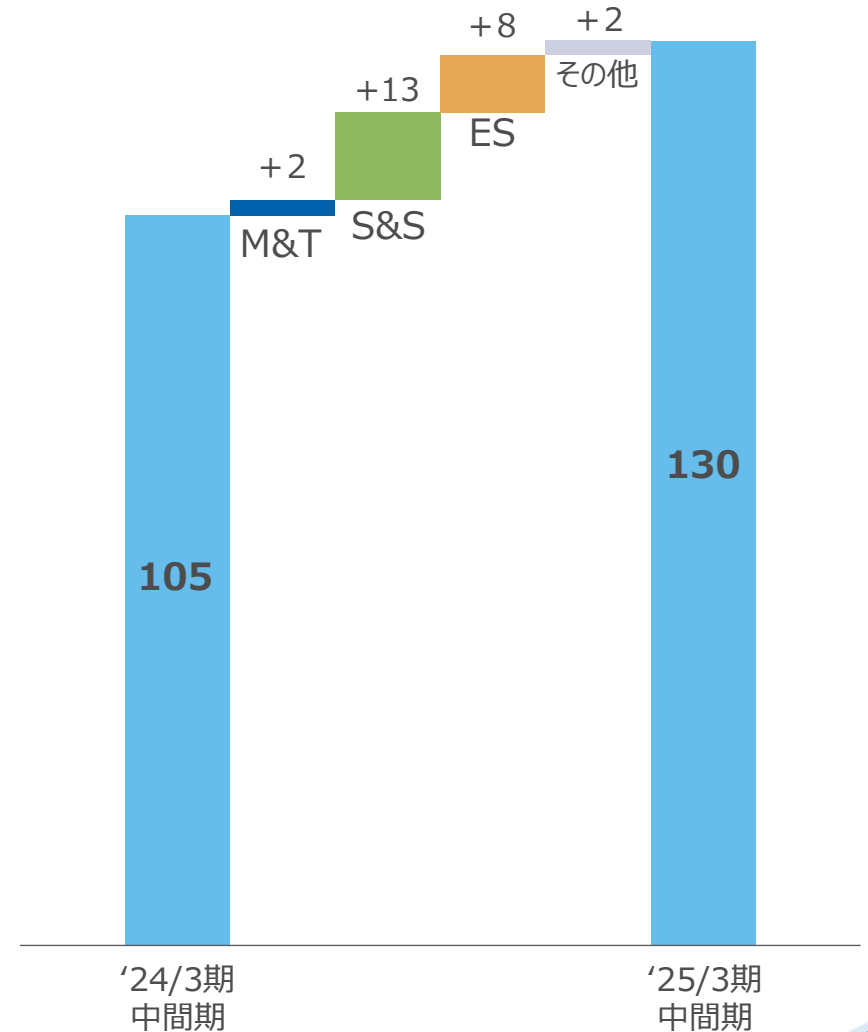
売上収益

(億円)



事業利益

(億円)



経営指標推移

設備投資・減価償却費・研究開発費推移

(億円)

	'22/3期					'23/3期					'24/3期					'25/3期					
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	
設備投資※ (有形+無形)	44	76	55	48	223	54	53	45	45	197	46	59	83	76	264	73	90				162
有形固定資産	22	52	30	20	124	33	30	28	23	114	26	36	60	49	170	41	62				104
無形固定資産	22	24	26	28	100	21	23	17	21	83	20	23	23	28	94	31	27				59
減価償却費	46	43	41	41	171	42	44	44	46	176	44	46	46	46	182	44	44				87
研究開発費	40	39	38	41	159	40	41	43	51	174	45	45	51	54	194	45	46				91

※ 有価証券報告書には、有形固定資産のみを記載

地域別売上収益推移

(億円)

	'22/3期					'23/3期					'24/3期					'25/3期					
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	
日本	282	249	308	433	1,272	278	333	315	360	1,286	294	310	312	341	1,258	259	281				540
米州	127	129	126	182	564	170	207	196	228	800	241	251	235	233	960	260	255				515
欧州	120	107	127	125	478	127	135	198	161	621	160	159	198	200	716	185	177				362
アジア+中国	101	104	129	123	457	129	168	168	130	595	147	153	163	135	597	158	156				314
その他	15	10	12	12	48	16	18	18	16	67	15	18	17	13	64	16	18				34
合計	645	599	702	875	2,821	720	861	894	894	3,369	856	891	926	922	3,595	878	888				1,766

JVCKENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。